

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立		芦田中		学校				
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的・対話的・協働的な学びにより、学ぶ意欲を高め、学力向上を図る。	★	見直し	個別最適な学びと協働的な学びの往還を中心とし、学ぶ意味や意義が見いだせる授業づくりをする。 教科横断的な学びを展開し、持続可能な社会の実現に向けて、主体的・対話的に考え活動する授業づくりをする。	生徒が見通しをもって学習できる単元構成や課題設定を工夫することにより、主体的・対話的・協働的に課題を解決する力を高める。また、学びと学び、学びと生活、学びと人をつなぐ取組を行い、生徒が、努力した場面を逃すことなく評価する。	①「授業の課題を自分から進んで考えることが面白い。」②「授業の課題を友だちと協力して解決することが面白い。」③「学びが自分のこれらにつながっていると感じる。」という生徒の肯定的表を①80%②90%③90% ④定期テストにおいて、40%未満の生徒30%未満にする。	①85.7%、②93.3%、③90.9%、④40%未満の生徒は17%であった。 全教職員で、目標達成に向けた取組を意識して取り組んだ。その結果、生徒アンケートの数値は、全項目で目標値を越えた。	3	4	夏季休業中には、校内研修では、2学期からは、次のア、イの取組をしていくことを確認した。 ア 生徒のつまずきを予想し、授業改善していく。 イ 基礎・基本の定着のため、生徒の実態に応じて、ドリル（反復練習）をしていく。	①81.9%、②88.9%、③92.9%、④40%未満の生徒は20%であった。 中間評価における改善方策を実施した。また、10月の校内研修では、本校研究テーマ「つなぐ～よりよい集団作りを通して」を基にした取り組みを交流し、今後の実践に生かしていくことを確認した。そのことが③の達成状況の向上にいくらか影響したと考えられる。	3	4	3	①各教科で、深く考え、対話を通して解決していく課題を設定する。 ②友達と協力して課題を解決していくことのよさを実感させる。 これらのことを通して、主体的・対話的・協働的な学びの実現していく。
1	芦田マインド（優しさ、思いやり、きく心、ありがとうの気持ち、役に立つこと）～真心・感謝・貢献～を意識し、自他を認め、落ち着いて行動し、人の役に立てる生徒を育成する。	★	見直し	自己と他者のよいところを認め、他者と関わる中で、相手への優しさをもって行動する生徒を育てる。	生徒が優しさをもって人と接することができた場面や落ち着いて考えることができた場面、人のために行動できた場面を適切に評価する。また、他者との関わりの中で、お互いに高め合える集団づくりをする。	①「他の人の役に立てた。」②「自分にはよいところがある。」③「他者のよいところに気付いた。」④「落ち着いて考え、優しさをもって行動した。」という生徒の肯定的評価を①90%②85%③95%④90%以上にする。	①89.2% ②76.9% ③94.1% ④90.9% 授業や特活など教育活動全体で芦田マインドを意識した取り組みを進めたが、特に②の結果に表れている通り、自己肯定感の醸成が不十分であり、課題が残る。	2	2	授業や学活などを通して、自己評価と合わせて、仲間を評価する機会を増やし、自己肯定感の向上を図る。	①90.5% ②77.0% ③96.1% ④90.9% 中間評価と同様に②の項目において課題が残った。その他においては、目標を達成した。	3	3	3	③の項目を活かし、仲間を評価する機会を増やす。また、その伝え方も高めていき、お互いに高め合える集団づくりを進める。
4	自ら運動に親しむ生徒を育てる。		継続	主体的に体を動かし、体力を向上させようとする生徒を育てる。	生徒が主体的に体を動かすことができるよう、運動の楽しさを伝え、自らの課題を多様な方法で解決できるよう支援する。	①「体育の授業に進んで取り組み、体力を向上させようと努力することができた。」という生徒の肯定的評価を90%以上にする。	①93.3% 運動への関心を高めるために、向上が期待できる体力要素を理解し、運動する運動を行った。	3	3	主体的に体を動かすことができるように、授業での活動を軸として、運動やスポーツが好きと言える生徒の増加を目指す。	①94.4% 体力要素を理解し、運動する運動を行うとともに、保健分野との関連や既習事項との関連付けを行った。生涯にわたって運動やスポーツをすることができる意識づけを行っていく。	3	3	5	保健体育の授業を中心として、体を動かす機会と場の提供を継続して行っていく。また、体を動かすことで得られる効果についても触れていく。
4	保護者・地域に開かれた学校づくりと、教職員が意欲的に働ける職場づくりをする。		継続	学校の様子について、保護者・地域へ積極的に情報発信をすることにより、理解を図り、信頼される学校運営をする。	日々の取組や行事、生徒の活動の様子などを通信・メール配信などで、月2回以上発信する。	「通信やメール配信などで、学校や各学年の様子、地域での活動の様子がよくわかる。」という保護者の肯定的評価の割合を90%以上にする。	保護者アンケートの結果、肯定的評価の割合は、94.3%であった。メール配信を利用した各種連絡やアンケートの実施、不登校生徒の家庭と学級担任との連携などを重点的に取り組んだ。	3	4	引き続き、学校だよりの毎月の発行と、メール配信システムを活用した保護者・地域との多様なより綿密な連携を進めていく。	保護者アンケートの結果、肯定的評価の割合は、96.3%であった。学校だよりの発行は不十分となったが、下校時刻や生徒の安全にかかわる注意喚起・報告など、きめ細かに情報発信を行った。	3	4	4	従来通りきめ細かな情報の公開と合わせ、学校だよりの定期的な発行を確実に行う。また、入学前の新入生への情報公開も積極的に行う。
			継続	教職員が快適に勤務できる環境を整えることにより、生徒の学びを深める学校運営をする。	『この先4週間分の行事予定』を毎週配布し、計画的な業務遂行を進める。その際、効率化・精選・時間短縮などを図ることにより、生徒主体の学びづくりのための時間を保障する。	①「効率化・精選・時間短縮などを意識して、業務を行った。」という教職員の肯定的評価を95%以上にする。 ②時間外在校時間が、ふた月90時間以内（ひと月平均45時間以内）の教職員を100%にする。	①79% ②90時間を超えた職員の割合 4～5月 21.4% 6～7月 42.8% 8～9月 21.4% 一部の職員の超過がみられる。特に1学期末の繁忙期が顕著であった。	2	2	引き続き行事予定の周知と、在校時間が増加傾向にある職員への声掛けを継続するとともに、面談等を通して、ワークライフバランスの意識を高めていく。	①76.9% ②90時間を超えた職員の割合 10～11月 42.9% 12～1月 35.7% 引き続き、超過が多い。12月の入試事務の時期に計画的に効率化し、超過を減らすことができた。	3	2	2	学校経営への参画意識を高め、業務の偏りの解消に向けて、可能な限りの業務を平準化し、効率化を図る。

【プロセス評価の評価基準】

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

【達成評価の評価基準】

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

【総合評価の評価基準】

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。